【宮城県中新田高等学校】（仮称）未来創造科（令和９年度設置（予定））

目的

「100年つづくまち創り」を目標とした探究的な学びを通して、地域への思いと、地域活性化の熱意を持った人材を育成する

育成する能力

○自ら見つけ、探究し、発信する力
○自ら活動し、主体的に取り組む力
○自ら考え、判断し、行動する力

教育概要

【1年】総合的な探究の時間「加美町研究」など

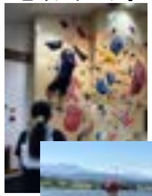
【２年】学校設定教科「地域創造学Ⅰ」
・地域産業Ⅰ・地域ｽﾎﾟｰﾂ学Ⅰ・地域防災学Ⅰ

【３年】学校設定教科「地域創造学Ⅱ」
・地域産業Ⅱ・地域ｽﾎﾟｰﾂ学Ⅱ・地域防災学Ⅱ

「教室が加美町」

地域産業Ⅰ

地域ｽﾎﾟｰﾂ学Ⅰ



地域防災学Ⅰ

地域産業Ⅱ

地域ｽﾎﾟｰﾂ学Ⅱ

地域防災学Ⅱ

関係機関との連携・協働体制の構築

大学有識者　地元企業　同窓会　商工会　保護者　加美町　町内の小・中学校

学校運営協議会（ｺﾝｿｰｼｱﾑ）

運営指導委員会　学校魅力化ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

中新田高校

【地域社会】
○地域社会の在り方を考え、実践する、**魅力ある地域社会へ**

【加美町】
○新時代に挑戦し続け、成長し続ける、**魅力ある町へ**

【中新田高校】
○50年・100年先の加美町を担い、支える人材を育成する、**魅力ある学校へ**

「中新田高校」の魅力が向上することで、「加美町」さらには「地域社会」の魅力を創出

【令和６年度の目標】	【取組状況】
①新規取組 ・教養総合類型３年生において「地域創造学Ⅱ」（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟやｲﾍﾞﾝﾄの企画･運営等多様な取組）	→10月に外部施設等において３つのｲﾍﾞﾝﾄを実施 ・親子ｲﾍﾞﾝﾄ　・ｶﾇｰｲﾍﾞﾝﾄ　・お化け屋敷
②組織編成と検討 ・校内に「(仮)学校魅力化委員会」を設置	→７月に「将来構想会議」を設置して検討開始
・令和８年度からの新学科設置決定 ・新学科の名称等について検討	→12月までに学校原案を審議し県に報告
・「総合的な探究の時間」等の教育課程の見直し	→令和８年度の教育課程全体の見直し案を検討中
・学校設定教科「地域創造学Ⅰ」の検証とブラッシュアップ	→課題の洗い出しを行い、次年度の予定計画
③意見集約 ・新事業について、コンソーシアムで検討	→２回の専門部会及び２回の協議会を実施
④視察及び研修 ・普通科改革支援事業実施校視察	→11月島根県立隠岐島前高等学校（４名） 和歌山県立串本古座高等学校（３名） １月愛媛県立三崎高等学校（２名）
・全職員対象の校内研修会の実施	→改革の方向性についてテーマを定めて検討 ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ　・探究指導講演会

【成果】

○生徒の変容
肌感覚であるが、他の類型の生徒と比較して自己肯定感やコミュニケーション力、外部発信力など非認知能力が向上し、学校生活において中心的な役割を担う機会増加
→　アンケート調査に加え、客観的な評価ができるよう検討を継続
○教員の変容
○地域との連携が強化された
○これからの学びに即した教育課程検討開始
○積極的に探究活動推進校としての認識向上

【課題】

●外部での発信機会の少なさ
●教科の授業や他の事業との連動性の低さ
●探究活動に関する教員の認識の低さ
→ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰへの依存性が高すぎる
●学校全体での取組への再構築
●学校設定教科の継続性向上に向けた取組
●少子化による教育環境の低下に関する教員や地域の危機感の高揚が鈍い

【日星高等学校】地域を軸に探究し、未来を創造する！『地域社会学科』（令和８年度設置予定）

主体性　協働性　探究性　社会性

- 失敗を恐れず最善をつくし、失敗から学ぶ力
- 自分の興味関心から「問い」を立て、自ら課題解決に向かう力
- 自分や他者との対話を通して、新しい価値を創造する力

新しい教育への挑戦・魅力ある教育の概要

① 学びを地域社会とつなぐ⇒自己有用感の向上
② 学びを多世代とつなぐ　⇒地域財産・文化の継承
③ 学びを他教科とつなぐ　⇒教科を横断し多角的な視点
④ ICTで学びをイノベーションする⇒DXの推進

令和６年度の目標	取組状況
「舞Way！」(総合的な探究の時間) カリキュラム開発	縦割りゼミ制で実施 全ての教員がゼミに参加
地域を学びのフィールドとした探究活動	コーデレネーターの採用により地域をフィールドとした探究活動を実施
研究活動の公開	中間報告、最終発表会を公開、義務教育関係者も加えた授業研究会の実施

学校風土の改革（ワクワクする高校へ）

高校が、社会に参画し変革する体験をする場に
- 生徒会が日星を探究し課題提起する
- 教職員・保護者・地域社会との協働

持続可能なまちと社会の担い手を育てる

ASPnet ユネスコスクール UNESCO ASSOCIATED SCHOOLS NETWORK

日星高校

運営指導委員
福知山公立大学
龍谷大学
立命館大学
一般社団法人KOKIN
舞鶴市
地元ベンチャー企業

コンソーシアム
舞鶴商工会議所
舞鶴市教育委員会
京都府立大学
京都府北部地域連携都市圏振興社
KATA .Lab
みんなあの居場所 彦一郎
地元企業

成果と課題

【成果】
- 全校生による中間報告会、最終発表会の実施
- 学校の枠を超えた連携（地元中学校、支援学校との協働）
- 地元企業との連携強化
- 高大連携による大学生との交流

【課題】
- 具体的取り組みについて、外部への発信
- 体系的カリキュラムの強化
- 生徒のリサーチ力・アクション力・検証へのプロセス力を上げる。

【大阪府立狭山高等学校】地域社会学科（令和８年度設置（予定））

地域社会学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

（目的・目標）　**地域社会に貢献する国際的知見を持ったリーダーの育成**

（特色・魅力ある教育の概要）

・「守破離」をモデルとした「自分ごと」の学びを深化・完成させる学習プログラム『**深学探究**』の実践

・**自己表現を高める基礎講座、地域行政と連携した課題解決探究（班別）、大学等と連携した個別課題解決型探究（個人）**などにより、国際的知見を持ったリーダーの育成。

深学探究(Deep Exploration)

守（基礎） 柔軟な思考力・判断力を育成し、探究するための基礎学力を伸ばす。

破（発展） 集団討議、課題解決を実践し、個々が課題を解決する能力を育成する。

離（完成） 地域社会の課題に対し個々が考察し、課題解決に向けた指針を示すことが出来る能力を完成する。

地域を担い、国際社会で活躍するリーダーを輩出

「守・破・離」をモデルとした、「自分ごと」の学びを深化・完成させるプログラムを実践

関係機関との連携・協働体制

海外姉妹校
豪：キャリー校
韓：景福高校

地域団体
大阪狭山市公民館
狭山池まつり実行委員会

交流　連携

狭山高校
【教員】
経営会議・運営委員会・職員会議
【校内コア組織】
普通科改革PT
コーディネーター
分掌・委員会・教科・事務室

指導　助言

運営指導委員会
大阪公立大学
近畿大学
大阪大谷大学
東京大学大学院
大阪狭山市公民館
JICA関西

連携

コンソーシアム
大阪狭山市
大阪狭山市教育委員会
大阪公立大学
近畿大学
大阪狭山市商工会
ナレッジキャピタル
三菱総合研究所
PLIJ

R6年度の目標及び取組状況

① 校内組織体制の改編

普通科改革推進プロジェクトチームを設置

- 管理職・分掌長・有志から編成
- 新学科カリキュラムの検討や探究成果発表会の企画運営、教員研修の実施　など

② コンソーシアムを構成する外部機関との連携協力体制の構築

大阪狭山市をはじめ大学や企業と連携協力体制を構築

- コンソーシアム会議を開催（３回）
- 地元の公民館や行事実行委員会とも連携

③ カリキュラム開発

新学科を見据えた探究学習の先行実施

- 思考力表現力の向上をめざす「校内ビブリオバトル」や「大学魅力ジャンボリー」、異文化理解を目的とした「JICA関西交流」、地域連携としての「子ども未来フォーラム」等を実施

［子ども未来フォーラム］

［JICA関西交流］

［大学魅力ジャンボリー］

④ 他の本事業指定校への視察

本事業指定校５校、探究学習先進校１校を視察

成果と課題

（成果）

- 新学科で育成をめざす生徒の資質・能力等のビジョンをまとめた「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン」の策定。
- 新学科で求められる教育活動に関する教員研修の実施（２回）。
- 新学科のカリキュラムの先行実施による生徒のプレゼンテーション能力や課題発見能力の向上。

（課題）

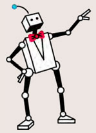
- コーディネーターとの連携強化
- 生徒が取組を通じて身につけた資質能力の伸長の検証
- ルーブリック等を活用した評価方法の開発
- 新学科設置についての広報活動

【伊丹市立伊丹高等学校】学際領域学科（令和７年度設置）

激動の社会変化に対応【未来とつながる】

グローバル化

共創

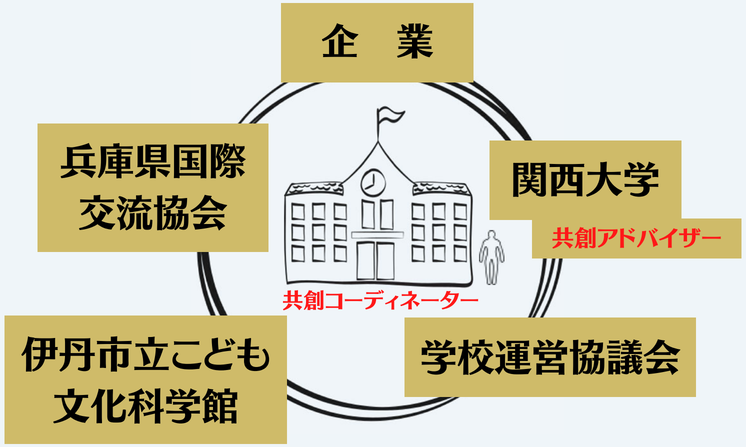

AI・ロボットの進化

実用的英語力	自信を持って英語を使える能力
国際感覚	多様な視点から柔軟に考察できる能力
革新力	新たなアイデアを創出する能力（0→1の力）
伝達力	相手に適切に伝える能力（9→10の力）

世界や社会で関わる人々とつながり、共に成長し、共に未来を創ることができるグローバル人材を育成する

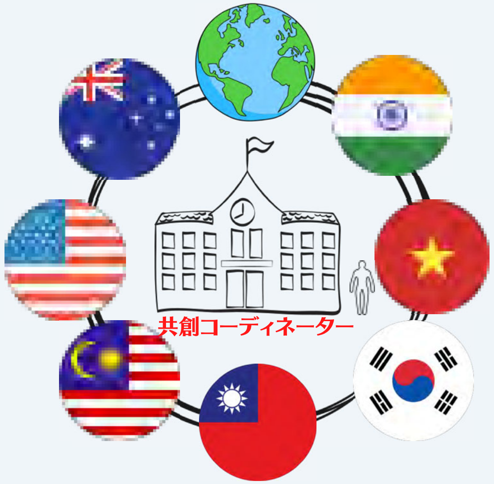
～グローバル共創科独自の探究学習～

外部の専門家との連携【社会とつながる】



最高の動議付け、必要な知識のインプット
効果的なフィードバック、真正な発表の機会等

世界中の人々との交流【世界とつながる】



長期留学生、オンライン探究交流、
対面交流、京都探究フィールドワーク等

令和６年度の目標

- 学際的な探究学習の充実
  - 教員の伴走型指導力の向上
  - 教科学習との往還
  - 評価方法の研究
- 校内組織体制の整備
- コーディネーターの配置
- 市内の小・中学校との連携
- 系統的なカリキュラム開発
- 新学科の学びの周知

令和６年度の取組状況

- 学際的な探究学習の先行実施
  - 多様な外部機関との連携
  - 多数の国際交流の機会
  - 発表会・探究フォーラムの開催
- 先進校視察
- コンソーシアム委員会の開催
- 設置準備委員会でのカリキュラム開発
- 多数の学科説明会の実施

令和６年度の成果と課題

成果

- 外部連携機関との連携強化
- 国際交流を多様なシステム化
- 先進校の取組を参考
  - カリキュラムマップの作成、校内体制　等
- 発表会・探究フォーラムでの学び合い
- コーディネーターの配置開始

課題

- 探究の質を向上させるための指導力向上
- 市内の小・中学校との連携
- 新学科の学びの周知

【兵庫県立尼崎高等学校】　地域科学探究科（種別：地域社会学科）　（令和7年度設置）

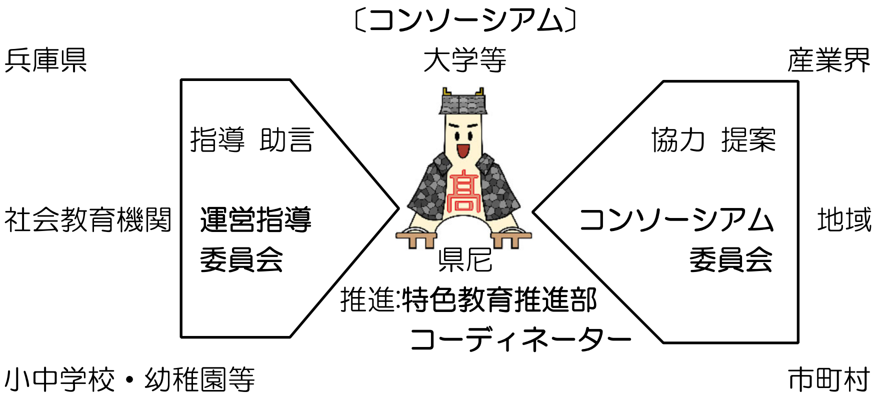
【学科設置の目的】

〇Society5.0 の時代に求められる生徒の育成
〇尼崎の都市特性を最大限に活かし、未来を共創する力を育む教育活動の充実
〇地域社会の持続的な発展や価値の創出に資する探究活動への取組

【特色・魅力ある教育の概要】

〇改編前の「教育と絆コース」から継承する環境学習・地域貢献活動
〇地域での体験活動に探究学習の要素を加味した活動
〇普通科改革支援事業指定校（兵庫県立柏原高等学校）との交流活動
〇「尼崎を知る、尼崎と動く、尼崎を動かす」をテーマに、コア科目「尼ゼミⅠ～Ⅲ」を通して尼崎市域をフィールドにした探究活動を行う（令和７年度から実施）

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】



令和6年度の目標	取組状況	成果と課題
1　改編前の「教育と絆コース」から継承すべき活動の検証・精査 2　体験活動に探究学習の要素を加味し、探究することの意義を意識づける 3　次年度以降のカリキュラム検討、開発 4　外部人材を講師とした講義・研修会等 5　コーディネーターの活用 6　中学生・保護者・地域への広報活動	1　現行コースの保育・教育の実習体験活動を検証し、普通科新学科においても意義のある活動を選定 2・夏季休業中、食育をテーマとした探究課題 ・大学訪問時に探究学習に関する特別講義 ・森のフェスタでの制作物に関する探究課題 3・特色教育推進部を中心に検討 ・運営指導委員会での指導・助言 ・コンソーシアム委員会での協力・提案 4　生徒向け1回、職員向け2回 5　可能な限り教員とともに教育活動全体にあたる 6　新学科説明会・模擬授業体験を実施	1「尼崎の森での環境学習」「森のフェスタ参加」「インターピープル開催」は継続実施 2　探究活動に関する意識が向上（生徒アンケート結果参照） 3　学科独自のスクール・ポリシー、「尼ゼミⅠ～Ⅲ」と「総合的な探究の時間」の指導計画を策定。第2学年以降に検討の余地【課題】 4　一定の意識変化はあるが不十分【課題】 5　コーディネーター自身が役割を理解。コンソーシアム拡大は次年度以降【課題】 6　ホームページの充実が必要【課題】

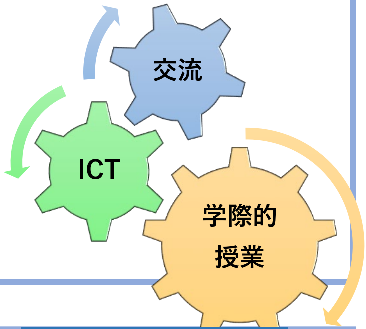
【兵庫県立淡路三原高等学校】学際領域学科「文理探究科」（令和７年度設置）

文理探究科設置の目的

・**学際的思考力育成** → 各学問分野への興味関心の深化
　→ 社会の変動に対応できる探究心のある人材育成
・**地域、企業、研究機関の人材と交流** →
　①主体性 ②創造性 ③協調性 ④社会参画意識を有した人材育成

特色・魅力ある教育の概要

・探究活動＋教科横断プログラム
・校外研修ツアーの充実
・実践的英語運用能力の育成
・ICT環境の整備とデータ活用技術の習得
・外部人材と学校をつなぐコーディネーター業務



関係機関との連携・協働体制の構築方法

南あわじ市連携協定
（地域人材）

地域の課題を知る
地域の良さを知る
地域で働く人を知る

うずしおコンソーシアム
（地域＋国際人材）

国内外の課題を知る
未知の世界を覗く
専門的知識、経験から学ぶ

運営指導委員会
（専門家からの助言）

コーディネーター
（教育と社会の懸け橋）

令和６年度の目標

a) 総合的な探究の時間と学校設定科目
　年間指導計画作成

b) 総合的な探究の時間「Sagas ラボ」
「Sagasゼミ」の先行実施

c) 生徒向け経年アンケートの立案作成

d) 企業、研究機関との連携新規開拓

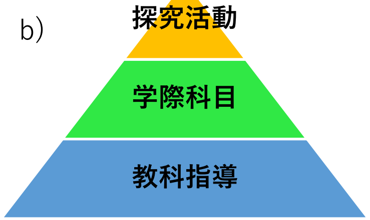
e) ICT環境の整備

f) 探究に係る教員研修の充実

g) 生徒の探究に向かう力育成

取組状況

a） b）



教科指導が生きるカリキュラム先行実施中

c） *観点別評価に使用できる*
　5件法22 項目のアンケート

d） *大学、研究機関—14*
　自治体、企業— 8

e） *新設教室「探究ラボ」*
　～MeetingからPresentationまで

f） *分野別校内研修— 1回*
　校外発表会、研修会への参加
　— のべ 13名

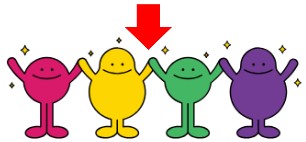
g） c）「主体性」の7項目で
　4以上を選んだ2年生の割合
　— 平均69.5%

成　果

1. 教員の探究活動への意識変化
　3年間連動カリキュラム
　↓
　探究に係る教員の増加（のべ42名）
2. 南あわじ市との連携内容の充実
　↓
　校外活動、地域人材との交流増加
3. 校外発表会に参加する生徒数増加
　（2年生：30名）
4. 体験型オープンハイスクール
　（Sagas Day）の実施
5. 研修旅行（Sagasツアー）実施
　8月：東京/筑波、大阪/京都、広島
6. 生徒の意識向上
　「自分の探究活動が何かとつながる」
　実感 60.2%（経年アンケートから）

課　題

1. 運営委員会、コンソーシアム委員会などの会議調整
　↓
　会議目的の具体化と手段の改善
2. コーディネーター業務の効率化
　↓
　持続可能な運営：校内組織調整
3. 「学際領域」のわかりにくさ
　↓
　校内外での広報活動の重要性
　教職員の理解→地域の理解へ
4. 文理探究科から普通科へ
　探究カリキュラム還元



探究活動をすべての生徒に！

【島根県立津和野高等学校】その他の普通科（令和７年度設置　**未来共創科**）

～育てたい生徒像～

未来社会の創造に仲間と協働して主体的に挑戦しようとする人

5分野15個の育てたい資質能力

基礎力	課題発見力	課題解決力	社会情緒的能力	キャリア探究性
自他の心身の健康	知的好奇心	創造力	表現力	自他理解
知識･技能	共感力	協働性	対話力	自己決定力
情報活用能力	思考判断力	多様性活用力	発信力	粘り強さ

教科学習	探究活動	特別活動	情報活用

今までの取り組みの深化（教科学習・探究活動・特別活動）／新たな取り組み（情報活用）

協働体制

【行政】
島根県教育委員会
島根県商工労働部産業振興課
津和野町教育委員会
津和野町つわの暮らし推進課
一般財団法人つわの学びみらい

ツコウ
（津和野高校の愛称）

【企業】
株式会社さとくらし
株式会社Nex-E
タイムカプセル株式会社
バルトソフトウェア株式会社
株式会社ADDress

令和6年度の取組

- 新学科設置のための体制作り
  →SWOT分析を元にしたグランドデザインの策定
  →各中学校や地域みらい留学イベントでの新学科についての広報活動を実施。
- 企業や行政との連携強化
  →30回を超える対面やオンラインによる打ち合わせや、メールやチャットを用いた意見交換を実施。
- 授業についての検討
  →企業と連携をし新学科２，３年次実施予定の科目について、データサイエンス系とプログラミング系の内容にすることとし、年間実施計画を作成。
- 校内における研修機会の確保
  →毎年、授業担当者全員が年２回行う公開授業のうち２学期実施分について、新しいグランドデザインに明記された「育てたい資質能力」を意識した授業公開を実施。
  →データ分析の方法について、本校数学科教員を講師とした研修会を実施。
- 企業と連携した教育活動の実践
  →放課後デジタル講座に連携企業から講師を招き、デジタル機材を用いた創作活動講座を実施。

次年度に向けた課題

本年度の成果

【校内】
- 授業改善
- 探究学習
- 外部講師授業
- 課外活動
- 評価方法

【地域】
- 企業との連携
- 小中学校との連携
- 地域の方へ成果発表